

獨協医科大学病院 脳卒中・心臓病等総合支援センターPR 「脳卒中・循環器(心臓・血管)相談窓口」開設

2019年国民生活基礎調査では、要介護5の認定を受ける人の約28%は脳卒中または心臓病が原因という結果がでている。厚生労働省は、脳卒中や心臓病の患者及びその家族への情報提供・相談支援等に対する総合的な取り組みを、都道府県及び地域の中心となる医療機関と連携し、同取り組みを包括的に支援できるよう体制の整備を推進。獨協医科大学病院は、包括的な支援体制を構築する厚生労働省の2022年度モデル事業実施機関に選定されている。

取材協力: 栃木県保健福祉部健康増進課

誰もが利用できる相談窓口

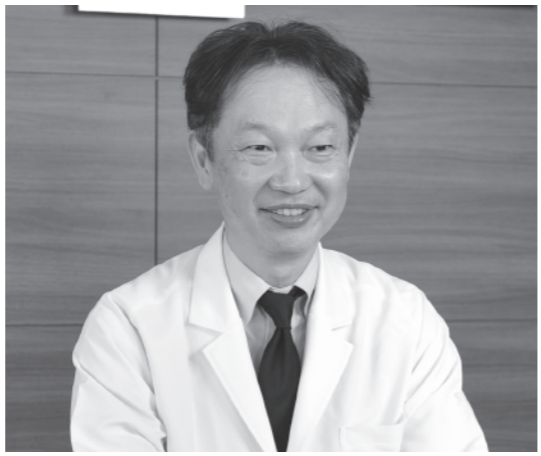


獨協医科大学病院脳卒中センター センター長 竹川 英宏

●経歴
1998年 獨協医科大学 医学部 医学科卒、獨協医科大学 神経内科 研修
2004年 獨協医科大学 大学院 神経学(神経)修了、獨協医科大学 神経内科 助手
2009年 獨協医科大学 神経内科 講師
2012年 獨協医科大学 神経内科 准教授
2014年 獨協医科大学病院 超音波センター長(～現在)
2016年 日本脳卒中協会 常務理事・事務局長
2018年 獨協医科大学病院 脳卒中センター長、教授(～現在)
2020年 日本脳卒中協会 栃木支部 支部長(～現在)
2022年 日本脳卒中協会 専務理事・事務局長(～現在)

厚生労働省から2020年10月に「循環器病対策推進事業計画」が発表され、栃木県は全国に先駆け2021年3月に「栃木県循環器病対策推進計画」を公表しました。この計画には、脳卒中・心臓病・血管病の予防、医療体制の整備、患者さんが安心して暮らせる社会づくり、情報提供など多くの目標が立てられ、その中に、患者さんご家族の相談支援があり、獨協医科大学病院は「公任、日本脳卒中協会栃木支部、事務局長」中協協賛入居支部、事務局長として、脳卒中・心臓病・血管病の相談窓口の開設を推進しました。

栃木県や医療機関と連携



心臓・血管内科/循環器内科 教授・診療部長 豊田 茂

●経歴
1993年 獨協医科大学 医学部 医学科卒
獨協医科大学 第一内科(現心臓・血管内科/循環器内科)入局
獨協医科大学 大学院修了
1999年 獨協医科大学 第一内科 助手
2006年 獨協医科大学 第一内科 講師
2011年 獨協医科大学 第一内科 准教授
獨協医科大学病院 地域連携・患者サポートセンター 副センター長
獨協医科大学病院 心臓・血管内科/循環器内科 教授(～現在)
獨協医科大学病院 ハートセンター 副センター長(～現在)
獨協医科大学病院 先端医学研究センター センター長(～現在)
獨協医科大学病院 臨床研究管理センター長(～現在)

栃木県は脳卒中の年齢調整死亡率が全国で男性ワースト4位、女性ワースト2位、心疾患の年齢調整死亡率が全国で男女ともワースト2位となっています。H27年調査によると、年齢調整死亡率は年齢構成が異なる地域間で死状の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率のことです。また、全国で「要介護5」の認定を受ける方の約8%が脳卒中または心臓病が原因という結果が出ています。

患者さんと家族を支える日々多くの患者さんが心臓・血管内科/循環器内科を受診します。心不全が原因で入院を繰り返す方もいます。食生活など、日々の生活を改善することで発症を抑える効果も期待できますが、診察も生活指導を行うことは難しいのが現状です。また、心臓病は外見に症状が現れにくい、服薬の状況や息切れなどの症状に固執の理解が追いつかなくなったり、異変が起きても気付いてもらえなかったり、辛い思いをする方が多いです。こうした悩みを相談する場として、脳卒中・心臓病等総合支援センターを利用ください。

「脳卒中・心臓病のサイン」
FAST(ファスト)を覚えよう!
F[Face] 顔の半分が動かなくなったり、口元が下がってくる。
A[Arm] 片方の手足が動かない、力が入らない。
S[Speech] 話そうとしても呂律(ろれつ)が回らない、言葉がでない。
T[Time] 症状に気づいたら、すぐに受診する。

「悩みを抱える患者さんとその家族を支援」
都道府県
地域の病院
かかりつけ医
患者・地域住民

「相談事例」
Q. 一般的な症状があるが、これは後遺症か、後遺症としては一般的なものか、それとも何か重大な問題を抱えているのではないだろうか?
A. 一般的な症状を聞き、具体的な症状を聞き、医師等に相談し、一般的な症状をもとに回答するものであり、診断診療ではありませぬ。

「無料の相談窓口」
誰にでも起こる可能性がある脳卒中と心臓病。発症後、患者さんご家族はさまざまな悩みを抱えることになる。獨協医科大学病院の「脳卒中・心臓病等総合支援センター」では、手足の麻痺や失語症、高次機能障害等の脳卒中・心臓病等発症後の後遺症に悩む患者さんご家族が日常生活を円滑に営むため、社会参加・就労支援・経済的支援を含めた支援や福祉サービスについて、医療ソーシャルワーカー(MSW)が社会福祉の観点から対応。相談内容により、医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーションスタッフなどの専門職が協力することで幅広い支援が可能な体制を整えている。

「脳卒中・心臓病のサイン」
心筋梗塞
胸の痛みや圧迫感
絞扼感(こむくかん)
胸やけ
腕・肩・歯・あごの痛み
・数分～10分程度で症状がなくなる。
・上記症状を繰り返すことが多い。
・階段や歩行等により上記症状が起こる。

「相談事例」
Q. どのような症状があるか、これは後遺症か、後遺症としては一般的なものか、それとも何か重大な問題を抱えているのではないだろうか?
A. 一般的な症状を聞き、具体的な症状を聞き、医師等に相談し、一般的な症状をもとに回答するものであり、診断診療ではありませぬ。

「無料の相談窓口」
誰にでも起こる可能性がある脳卒中と心臓病。発症後、患者さんご家族はさまざまな悩みを抱えることになる。獨協医科大学病院の「脳卒中・心臓病等総合支援センター」では、手足の麻痺や失語症、高次機能障害等の脳卒中・心臓病等発症後の後遺症に悩む患者さんご家族が日常生活を円滑に営むため、社会参加・就労支援・経済的支援を含めた支援や福祉サービスについて、医療ソーシャルワーカー(MSW)が社会福祉の観点から対応。相談内容により、医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーションスタッフなどの専門職が協力することで幅広い支援が可能な体制を整えている。

脳卒中・心臓病等総合支援センター

獨協医科大学病院主催
市民公開講座&脳卒中サロン

オンライン・事前申込・参加無料

QRコードからWebサイトへそれぞれの申し込みフォームに必要事項を入力の上、申し込み。
※参加にはWeb会議ツール「ZOOM」が必要です。

市民公開講座の「オンデマンド配信」もこちらから

脳卒中サロン 日時:3月23日(木)午後1時～

- ミニ講座
脳卒中はもう起こさない!そして楽しく過ごそう!
講師:竹川英宏教授(20分)
- おしゃべり会 (40分)

市民公開講座 定員450名 日時:3月4日(土)午後2時～

オンデマンド配信(視聴予約不要)
3月13日(月)～24日(金)※予定

知って欲しい!脳卒中・心臓病の話!
～みんなで支える相談支援:脳卒中・心臓病等総合支援センター～

- オープニング
「栃木県の脳卒中・心臓病対策について」
栃木県保健福祉部保健医療監 岩佐景一郎先生(5～10分程度)
- 講演1 「知って欲しい!脳卒中の話」
講師:脳卒中センター 竹川英宏教授(30分講演+質疑5分)
- 講演2 「知って欲しい!心臓病の話」
講師:心臓・血管内科/循環器内科 豊田茂教授(30分講演+質疑5分)
- 相談支援紹介
医療ソーシャルワーカーから相談窓口の利用について紹介。(5分程度)

脳卒中相談窓口
循環器(心臓・血管)相談窓口

受付:月～土曜 9:00～16:30(第3土曜および休診日除く)

対象:どなたでも利用可(紹介状不要/獨協医科大学病院の受診歴不要)

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880(獨協医科大学病院内)

獨協医科大学病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター

Mail: noushinsoudan@dokkyomed.ac.jp

TEL.0282-87-2185
FAX.0282-87-2067

来院に限らず、TELやFAX、メール等での問い合わせ可。来院の場合は事前連絡が必要。

相談受付フォーム

アクセス